



道の駅と大学の連携・交流の新境地 ～道の駅“玉村宿”女子大プロジェクト～

群馬県立女子大学 国際コミュニケーション学部
教授 安齋 徹

■道の駅と大学の連携・交流

地域の創意工夫により道路利用者に快適な休憩と多様で質の高いサービスを提供する施設である道の駅。当初は、通過する道路利用者へのサービスが中心でしたが、近年、農業・観光・福祉・防災・文化など特色を活かした「地域の拠点」としての機能が強化されています。更に最近注目されているのが、道の駅と大学の連携・交流です。

■道の駅“玉村宿”女子大プロジェクト

県立女子大学の「ビジネス・リーダー論」の受講生と「社会デザイン論ゼミナール」のゼミ生は、2015年度に「道の駅“玉村宿”女子大プロジェクト」と称して「新たにオープンした道の駅“玉村宿”を盛り上げる」という課題に挑戦しました。

5月に玉村町や道の駅“玉村宿”による講義を受講し理解を深め、6月に玉村ツアーを行い、実際に見聞しながら地域の魅力を確認しました。7～11月にかけて企画案の発表、実現可能性の観点からの修正、関係者とのチェックポイントミーティングを繰り返し、周到に事前準備を進めました。

そして迎えた11月22日本番には4つのイベントを実施しました。第1にたまわんグランプリ2015の実施です。道の駅“玉村宿”のグルメNo.1を決定するコンテストを行いました。第2に女子大生が考えたレディースセットの販売です。地元の食材をふんだんに使用したヘルシーなランチを売り出し、完売しました。第3に「We Love TAMAMURA!」イベントの開催です。講義やツアーを通して学んだ玉村町の観光や行事の魅力を、工夫を凝らした映像や楽しいクイズも交えて紹介しました。第4に電動バスの試乗会です。玉村町が保有するエコな電動バスに、クリスマスの装飾を施し子供たちに好評でした。

盛り沢山の「女子大プロジェクト」を楽しむ来場者で道の駅は大賑わいでした。「女子大プロジェクト」はテレビや新聞など各種のメディアでも盛んに取り上げられ、道の駅“玉村宿”の知名度向上にも貢献することができました。

■全国初の「道の駅と大学連携成果発表交流会」に参加

この「女子大プロジェクト」は、第1に大学教育の一環として調査・研究→企画・立案→準備・実行という手順をチームで行い学生の成長を促したことで、第2に学生自らが地域の良さを見つけ出し発信するというプロセスがあったこと、第3に提言だけでなく実行を伴い、これだけ多種多様なイベントの同時開催を成し遂げたこと、から新たな境地を切り拓いたと自負しています。国土交通省関東地方整備局が2016年3月に開催した全国初の「道の駅と大学連携成果発表交流会」では、群馬県の大学として唯一発表の機会を頂きました。

